

横浜市水道局「安全でおいしい水推進事業」に関する聞き取り調査結果 ～「総トリハロメタン」の目標値設定経緯について～

技術アドバイザー：関東学院大学 鎌田素之

1 調査概要

第4回おいしい水づくり計画策定懇話会の「おいしい水づくり計画」策定に係る水質目標検討の中で、「総トリハロメタン」を水質目標項目として提言するべきか。また、目標項目とする際には目標値をどのように設定するかについて議論しました。

その結果、横浜市水道局の「安全でおいしい水推進事業」において、「総トリハロメタン」を目標設定していることから、この設定経緯等を確認した上で再度検討することとしておりましたので、横浜市水道局計画課に電話にて聞き取り調査した結果を報告します。

2 調査結果

調査の結果、「総トリハロメタン」の目標値は測定実績値の「平均値」を採用し、安全に関するリスク評価を根拠とした数値ではない。お客様により安心感を持っていただくため、「低減可能な濃度を目標値」を根拠とし、その達成率をお客様へ提示していくため、目標値を設定したとのことでした。

Q1：横浜市水道局で「総トリハロメタン」の目標値を0.015mg/Lとした根拠は？

A1： 横浜市の水源でなかでもっとも良質な道志川系統と同等の質の水道水を市内全域に供給することを目標とした。

そこで道志川系統の浄水場におけるトリハロメタンの最大濃度が0.010 mg/Lであり、給水栓に達するまで増加することを考慮して0.015mg/Lにした。

Q2：目標値に対する達成率を目標に掲げたこと経緯は？

A2： 先述の通り、「安全でおいしい水推進事業」では、国の基準の1/10を目標と考えたが、項目によってはそれを実現することが困難な項目もある。

1/10という数字に関して科学的に明確な根拠があるわけではないが、市民の皆様に分かりやすいという点を考慮し、期間を区切り達成率を示すという形で表現した方が分かりやすいとの観点から採用した。

総トリハロメタンだけでなく「TOC」、「臭気強度」、「鉛」に関しても同様の考え方で採用した。

Q3：「総トリハロメタン」で（短期）の達成率と（長期）の達成率を設定した根拠は？

A3： まず、長期（約10年）で現在の平均値（0.015mg/L）を全ての測定箇所でクリアすることを目標とし、現在の達成率が58%ということから短期（約5年）ではきりのいい数字として75%を設定した。特に75%に関して科学的な根拠等はない。

（了）